外国語学部中国学科１年（参加時）

２月２８日に日本を出発し、中国の大連外国語大学での語学研修に参加しました。３月２４日に帰国するまでの２５日間を大連で過ごしました。

大連に到着して初めて建物の外に出て感じたことは、とにかく寒いということです。私は、ヒートテックにセーターを着て、その上からダウンを着ていたのですが、それでもしっかり寒さを感じました。しかし、飛行機やバス内は暖かく、外だけが寒いというような感じで、体温調整が難しかったです。空港から大学までは、長期留学の先輩方と一緒に大学のバスで大学に向かいました。大学内はとても広く、留学生寮や教室、中国の学生が生活する寮、食堂、総合楼、図書館、とたくさんの建物がありました。私が生活した寮は敷地内の端にある北楼です。ベット、机と椅子、シャワー、トイレ、収納スペースなどがありました。また、私が生活した部屋は、以前住んでいた学生が残していったハンガーや洗濯物干し、靴置きがあり、それも利用していました。

３月４日から大学の授業が始まりました。留学生は、午前中に中国語の授業を受け、午後は選択授業を受けます。中国語のクラス決めは、テストの結果を参考に分けられます。しかし、最初の３日間は自分のレベルにあったクラスを探すために、クラスを移動して授業を受けられました。私は、初日は初級Ｃクラスで授業を受けましたが、簡単に感じたため、次の日からは初級Ｂクラスで授業を受け、最終的に初級Ｂクラスで確定しました。初級Ｂは、基礎、リスニング、口語の授業がありました。基礎は、単語を勉強した後に、教科書の本文を音読、そして教科書の練習問題を解くといった流れでした。リスニングは、単語を勉強し、教科書のリスニング問題をひたすら解くといった流れでした。口語は、単語を勉強し、本文を読むだけでなく、ペアワークとしてクラスメイトに簡単な質問をする活動や、２人組でスキットを作って発表する活動もありました。どの授業も初級総合で学んできたレベルと変わらないくらいの内容でしたが、先生の説明が中国語だったり、教科書の本文にピンインが載っていなかったりと、大変だと感じることもありました。また、私は語学研修前からリスニングが苦手だったため、リスニングの授業は特に大変だと感じました。しかし、この経験によって自分に足りていないのは、リスニングだと改めて感じることができただけでなく、日本での学習

课　程　表

班级：初级Ｂ班　　2024年3月4日-2023年6月28日（16教学周）

	星期一 MON	星期二 TUE	星期三 WED	星期四 THU	星期五 FRI
第1、2节 8：30-9：50	基础	听力	基础	基础	口语
教室	中文楼402	中文楼505	中文楼402	中文楼402	中文楼402
第3、4节 10:10-11:30	基础	听力	基础	口语	基础
教室	中文楼402	中文楼505	中文楼402	中文楼402	中文楼402
第5、6节 13:30-14：50					
教室					
第7、8节 15:10-16:30					
教室					

がどれだけ甘かったかを痛感し、日本帰国後の勉強へのモチベーションにもつながりました。午後の選択授業は、箏、切絵、太極拳の授業を受けました。選択授業は２週目から始まったため、本格的に体験することはできませんでしたが、本物の太極拳を体験できたことが特に印象に残りました。

週末の授業がない時間は、北九大の先輩、ルームメイトの日本人の方や同じクラスの留学生と一緒に大連市まで出かけたりしました。大学から大連市内までバスが通っていて、そのバスを利用したり、電車や地下鉄を利用して市内まで行ったりしました。学校のバスも地下鉄も１時間くらい乗っていても１２０円から１６０円くらいでとても安かったです。ホームや路線図も分かりやすかったですが、駅が広く乗り換えが大変な駅もありました。日本と違う点は、切符を買ってホームに行くまでに手荷物検査があることです。専用の機械に通して検査を受けなければいけませんでした。

大連市内のショッピングセンターは特に人が多く、とてもにぎわっている印象でした。大連は海に近く、日本では見ることができないきれいな景色をたくさん見ることができ、とても楽しかったです。

ここで中国で不便だと感じたことについて書きたいと思います。中国はモバイル決済が一般化しており、大学の食堂やスーパー、市内のショッピングモールだけでなく、屋台もモバイル決済用の QR コードが掲示してある状況でした。注文も QR コードを読み込ん

で注文する店舗があり、スマホ一台で何でも済ませることができ、とても便利でした。しかし、中国の口座を持っていないとアプリの送金サービスを使えなかったりしたため、大人数でご飯を食べた際に少し不便でした。また、稀にエラーがでてアプリで支払いができない場合があり、現金が必要なときもありました。現金支払いでも大丈夫だと言ってくださるところがほとんどですが、おつりがないと言われるので小額紙幣を多く持っておく必要があります。また、私は今回の渡航は、中国 SIM を使わなかったため、中国の電話番号を持っていませんでした。寮の洗濯機はアプリを使って利用するのですが、中国の電話番号がないとアプリを使えないため、長期留学の先輩にかわりに洗濯機を回してもらっていました。スマホがあれば何でもできるのでとても便利でしたが、短期滞在の場合は少し不便だったこともありました。

留学生活を通して、自分の中国語のレベルはまだまだだと痛感しました。私はベトナムからの留学生と親しくしていましたが、彼女の言いたいことをうまく理解できなかったり、自分の伝えたいことを伝えられなかったり、悔しい思いをすることが多かったです。はじめは聞き取れなかったら、伝わらなかったらという不安で自分から話しかけられませんでした。しかし、このままでは中国に来た意味がないと思い自分から話しかける努力をしました。聞き取れなかったときはもう一回言ってもらったり、翻訳アプリを使ったりしてコミュニケーションしました。また、授業は日本と違い、指名された人が発言するのではなく、考えがある人が自由に発言することが多かったです。このような場面でもとにかく中国語を自分から使うことを意識して、たくさん発言するようにしました。まだ食堂の店員の方などが話すネイティブの中国語は聞き取れないですが、留学生同士の会話はできるようになり、積極的に中国語を使うことが中国語を上達させる最も良い方法だと思いました。
また、様々な国の留学生と交流して、国によってジェスチャーの意味が違うことを学びました。私が同意するときに首を縦に振ったら、他の国の留学生から「同意しているの？」と尋ねられたことがあり、ちゃんと言葉にして伝えることが大切だと学びました。

中国の方々は、留学生である私にとても親切にしてくださり、中国のことが更に好きになりました。私も日本を好きになってもらうために、もっと海外の方に親切になろうと思いました。また今回の研修での出会いをこれからも大切にしたいです。もっと成長した姿を見せられるように、日本での学習をもっと頑張ろうと思います。